

岡山県立聾学校とのコラボレーションによる壁画制作プロジェクト

A Study of Mural Paintings : Collaboration with Okayama Prefectural School for the Deaf

(2013年3月31日受理)

上 浦 千津子

Chizuko Kamiura

Key words : 造形表現, 美術教育, 壁画制作, コラボレーション

要 旨

本実践は、2011年下旬から、2012年秋までの間、中国学園大学子ども学部子ども学科の学生が岡山県立聾学校幼稚部・小学部の描いた絵画を模写する取り組みを中心としたプロジェクトである。壁画の素材としては、新体育館及び新講義棟を建設するにあたり設置された仮囲いとアクリル絵の具を主に用いた。本実践を通して、子どもの絵について実技を通して大学生が学ぶ意義について確認し、考察を行った。

はじめに

本実践を行うに当たっての動機と目的は、子どもの絵の良さについて知る、というものである。他に以下のような理由があった。

- ①大きな絵を描きたいと切望する学生の存在。
- ②日々、自分たちの作品を鑑賞し、自信を持ちたいと望む学の存在。
- ③異校種および地域との拓かれた場での協同的な学びによって、造形表現の意義や方法について、より具体的かつ客観的な理解を学生に促すこと。
- ④概念的な表現の課題についての気づきを得ること。
- ⑤表現の良さとは何かについての気づきを得ること。
- ⑥造形を行うにあたっての、当事者としての主観的な思いと客観的な評価、表現の社会的な側面についての気づきを得ること。

また、聾学校の学生が、とても美しい作品を描くという事実についても大学生に実感してもらいたかった。そこで、子どもに関わることへの興味や関心につながれば、という思いもあった。

一方、「子どもの絵の模写ではなく、自分たちが考えた絵を自由に大きく描きたい」と要望する学生の声があったのも事実である。そのため、該当学年の学生には、グループで構想の上、自由なテーマで描く課題を課した。天候と授業時間の都合で、限られた時間内に描いたものであったが、完成後は、作品発表会により制作意図の発表と討議を行い、コンセンサスを得るためのシート（以下、「コンセンサスシート」とする）に鑑賞者からの感想を集め、環境に配慮した絵画の特性について考え、修正を行った。炎天下に、建築現場での制作という過酷な条件ではあったものの大学生たちは、テーマや描き方を工夫し、時に協力しあい、時に情熱的に、効果的な色彩表現について模索する良き機会となり、加えて、毎日の通学で自ら描いた絵を目にすることで、学園への愛着に繋がったものと思われる。

1. 子どもの絵の美しさと仮囲い

岡田清は、子どもの絵の美しさについて、次のようなキーワードで解説を行っている¹⁾。

- ・微笑ましい絵 ー稚拙美ー
- ・可愛い絵 ー無邪気な美ー
- ・愛情のあふれた絵 ー親愛美ー
- ・素朴な絵 ー素朴美ー
- ・あばれている美 ー発散的美ー
- ・可能性のある絵 ー幼さを大切にー
- ・たくましい汽車 ー強さの美ー
- ・えびがにを見てかく ー美術的な美ー
- ・虫を追う鳥 ー内面美ー
- ・ならんだ牛 ー求心美・造形美ー
- ・水に浮かぶピノキオ ー認識美ー
- ・夢のある絵 ー型の美ー

さらに岡田は、「美の性格は無限にある」として、上記以外の別の見方をしてもよいと述べた上で幼児の絵を次のA、B²⁾に大別している。

A：幼児が意識的に美しくしようとした作品
 B：子どもが本当に無邪気になり心の垢を落とした
 正直な心になり、純真に心の生活を描くと、絵
 にその子の生命という心が宿ります。それが
 私たちの心に響く。そうした作品。

一般的に大人の絵では、AであれBであれ「美しさ」が感じられれば人は納得する。たとえ概念的で没個性的な表現であっても、良俗な表現に感じられる絵は、「良い」と規定され、自由闊達に描いた作品でも俗悪な表現と捉えて鑑賞されれば、「落書き」として認知され得る。しかし、子どもの絵は特別なものとして捉えられ、岡田は、絵を直観から生まれるものとして健康な心から生まれる「健康な美」が「基本になってほしい」と述べている³⁾。

では、このような子どもの絵を大学に配することは、環境に、どのような影響を与えるのだろうか。

2000年9月の日本建築学会では、「環境構成要素としての仮囲いの色彩特性に関する研究」として景観特性区分地域における実態調査及び分析が発表され、「街中で見ない赤・黒は好感がもたれない。非日常と思われる黄、明度彩度が高い色調は遊園地地区で好まれる」ということが研究結果として出されている³⁾。また、工事の仮囲いの色彩では、設置される地域によって色彩特性があることが指摘されている。例えば、駅地区、住居地区、オ

フィス地区、歴史的風土保全地区、遊園地地区、山林地区などである⁴⁾。

本学は、「子ども学部」が設置されていることから、子どもの絵がキャンパス内に見られることは自然であり、むしろ解放感が感じられるのではないかと予想された。また、模写の原画として頂いた作品のほとんどは、全体的に黄色や黄緑、白、ベージュが多用されており景観を損なわないと判断できた。

II. 実 践

1. 授業プログラムと実践

子どもの絵を模写するにあたり、岡山県立豊学校幼稚園と小学部の子どもたち及び教員と、銭高組の協力、中国学園総務部の理解を平成23年度中に得、中国学園大学の体育館新設のための仮囲いに平成24年度より描画することとした。なお、この実践は、中国学園大学子ども学部の学内特別研究の「岡山県立豊学校とのコラボレーションによるフリー・ウォールプロジェクト」の一環として行われた。

(1) 模写

なお、模写をする行為は、一見、創造性とは対極の行為のように思われがちである。しかし、「模倣」と「創造」は、ピアジェによると相反するものではないという。また、塩見智子は、「模倣を非創造的であると決めつけるのではなく、一人一人の表現の認識のプロセスを注意深く見ていくことが求められる」と述べている⁵⁾。また、かつてゴッホやピカソが様々な古人の作品を模して学びを得ようとしたことや、日本の粉本、中国の伝模移写の心得のように、技術学習や図様学習、鑑識学習の効果の他、発想や構想、表現力等に対して、模写は効果的な学習方法の一つであると思われる。

授業概要と流れを次にまとめる。

(2) 授業概要

授業名：図画工作A

授業時期：2012年4月から7月のうち6回×2クラス

授業対象者：中国学園大学 子ども学部 子ども学科
(85人)

描画場所：中国学園大学の体育館新設のための仮囲い

描画媒体：仮囲い用鉄板(柵銭高組所有)約65m

描画材：アクリル絵の具、マスキット、マジック

描画方法：毛筆による着彩、原本の4倍拡大

模写原本：岡山県立聾学校 幼稚部及び小学部の生徒
作品 60枚

【授業の流れ】

1. 授業の意義の確認

- ・・・>パワーポイントによる「子どもの絵の模写の意義」

- (内容)
- ・子どもの心からうまれた表現に着目してみる。
 - ・子どもの描画発達、描画技術、展示のあり方
 - ・子どもの絵の良さについて考えてみる。
 - ・造形表現の歴史、パブリックアート
 - ・模写を行う原画写真
 - ・下描き
 - ・・・>マスキングテープによる位置決めと枠作り
 - ・トレーシングペーパーを原画コピーに掛け、4倍拡大した状態で鉛筆で鉄板に下書きをする。

2. 彩色

- ・・・>アクリル絵の具を紙皿に解き、絵筆で彩色する。

3. 途中確認

- ・・・>パワーポイントによる
- ・模写して思ったこと、造形教育って何



【写真1. 子どもの絵／岡山県立聾学校幼稚部】

上記の絵のタイトルは、「みかんがり」である。よく見ると、木の幹部や枝部に、黄色くみかんが描かれ、日差しの強い日だったのか、先生に帽子をかぶせてもらっている。楽しそうであり、先生の髪の毛の表現に動きがあり、自分自身を大きく描いている。この絵は、筆

者自身が模写をし、気づきをえた絵でもある。

一見、乱雑に描かれているようでも、表現しようとするストーリーがある。

4. 修正

- ・・・>コンセンサスシートによる鑑賞者の意見収集と修正

- ① 模写した絵を携帯電話の写真機能を利用して撮影し、その画像を学内の教職員、学生の家族、学科内外の学生、地域の人、(株)銭高組の関係者等に見せて、描いた状況や感想を伝えた上で、「魅力」、「修正希望」を聞き取り、コンセンサスシートに記入し、報告する。
- ② それらの意見を反映させた加筆と修正を行う。

6. 鑑賞会

- ・・・>作品制作時における気づきや感想を発表し、意見を述べ合う。

7. 振り返り

- ・・・>アンケート及びメッセージカードの作成を行い、模写を行って気づいたことを確認する。

《学生の様子》

原画とした子どもの絵は、心地よく力の抜けた描画の良さを感じられる絵が多く見られ、まさに岡田の指摘する「子どもの絵の美しさ」があると思われた。描き始めの時期より、学生たちは、興味をもって取り組んでいた。とりわけ、子どもたちの描いた絵の内容が明るく、また、イキイキとしていたため、学生たちも新鮮で明るい気持ちで描いていた。

2. アンケートと子どもへのメッセージ

模写を行った学生に以下のアンケートを行った。

Q 模写をして思ったことはどんなことですか。(複数回答可)

ア) 構図(絵の構成や配置・大きさ・バランス)が思いがけない。

イ) のびのびしている。

ウ) 色彩が面白い。

エ) 描いた時の思いが伝わってくる。

(どんな思いか：)

その他気づいたことを教えて下さい。

[アンケート結果：回収：63枚中]

ア：28， イ：44， ウ：24， エ：10， オ：21

また、別に「子どもたちへのメッセージ」を募り、以下のような回答を得た。

◆子どもへのメッセージ（抜粋）◆

「とてもかわいい絵。いきいきとした絵だったので、描いているのがとても楽しかったです」、「猫の可愛い絵をありがとう。精一杯、私たちも描くよ」、「とても楽しさが伝わってくる絵だね。学園祭は、楽しかったかな？楽しい絵をありがとう」、「こんにちは。君の絵は、とてもかわいくて、描いていて楽しかったよ。特にぶたさんがかわいくて好きです。これからも、素敵な絵をいっぱい描いて、遊んでね」、「紙に絵を描いて、それを画用紙に貼っているのが、すごいと思ったよ。（わたしが）絵を描いている時、まわりのおにいちゃんやおねえちゃんが、あなたの絵を『かわいい！』って言ってほめていたよ。わたしも、すごくかわいいと思ったよ」、「こんにちは。もちつきの絵、描いてとても楽しかったよ。ありがとう」、「楽しい絵をありがとう」、「色合いがとてもきれいだと思いました。表情なども、笑っていたり、ウインクしていたり、かわいかったです。とても上手に描けていたと思います。見てるこっちも笑顔になるような絵でした」、「とてもきれいな色で、細かくて難しいピアノも上手に描けているなあと思いました。ピアノを弾いている女の子の表情を見て、ピアノを弾くのが好きなのかなあ、楽しく絵を描いたのかなあと思いました。すごく楽しそうな様子が伝わってくる。かわいい絵だと思います」、「絵がとても上手に描けていて、学園祭がどんな感じだったのか伝わってきました。見ていて楽しくなりました」、「桃太郎の絵がすごく上手に描けていてすごいと思いました。きび団子もちゃんと描いていたので、良かったと思います」、「きれいな色合いで細かい花とかとてもきれいだと思いました。明るい色をたくさん使っていて、元気な感じがしました。踊りだしそうな感じだと思いました」、「版画を作るのは大変だったと思います。とても素敵な絵でした。学校がんばってください」、「いろんな色を使って、楽しそうな雰囲気を出しているが分

かりました。その祭りがすごく楽しかったんだなあと感じました。そのおかげで、こっちまで楽しい気分になりました。ありがとう！！」、「今回の絵は、想像力や発想力が豊かなので、描いていてとても楽しかったです。私たちはこれから、子どもに関わるが多くなります。なので、頂いた絵を見て、子どもの気持ちを受け取れるようになりたいなと思いました。今回は素敵な絵をありがとうございました。この絵を見て、私たちもいっしょに遊びに行きたいなと思いました」、「原画ありがとう。色やバランスが難しくて上手く表現できなかったけど、のびのびとしていてとても楽しかったよ」、「今回は、見ている私が、とても元気になる絵をありがとうございました。遠足の雰囲気がすごく出ていて、すごく楽しそうでした。なので、描いているときに、一緒に遠足に行っている気分になりました」、「模写をしてもものすごく楽しくできた。アルファベット『U』の中に、イルカや魚が描かれていて良い思考をしていると思った」、「泉という名前を漢字で書いているのはとてもすごいと思いました。とっても色がきれいでいてシンプルで、いい作品だと思いました」、「建物の中に‘里’が隠れていたりで難しかったけど、奇想天外の発想で、面白かったよ。何を描いているか、結局わからなかったけど、描いてたのしかつたよ」、「参観日におうちの人が来てくれてとても嬉しかったんだね！かわいい絵をどうもありがとう」、「かわいい動物3匹もいてよかったです。素敵な絵でした！」、「模写しやすい絵をありがとう。自分には自由に画用紙いっぱいに描くことができないから模写するときに楽しく描けて良かったです」

尚、これらのメッセージの内容に、次の要素 a, b, c がいかほど含まれているのかを調べた。

- a : 原画を描いた時の子どもの心情について書かれているもの。
- b : 描いた作品を鑑賞しての感想
- c : 模写を試みた自分の気持ちを表したもの。

その結果、寄せられたメッセージカード68通のうちaは18, bは, 62, cは48（重複あり）であった。また、制作した模写に対する学内外の意見をまとめたコンセンサスシートは、全体的に肯定的なものであったが、改良についてのアドバイスも記載があった。なお、原画を提供

下さった岡山県立聾学校の岡本宗久先生からは、「いい感じに描いてくださっているなど、うれしく思います」とのコメントをいただくことができた。

3. 考察

アンケートでは、学生たちは、子どもの絵から、「のびのびしている」、「構図が思いがけない」、「色彩が面白い」といった順で魅力を感じている。「その他気付いたこと」における回答では、「子どもの絵のセンスが面白い」、「細かいところも色を塗っていて時間をかけて描いたんだなあと思った」、「画面いっぱい描かれていた」、「模写をしながら『あ、これはお母さんを描いているのか!』と、思うことがよくあった」、「野原と山の色を変えて遠くにあるようにしてみせている」などといった記述があった。中には、「黒地に白の紙を貼っているのがすごい。配置がバランスとれている」というように、聾学校教員が子どもの絵の見せ方を配慮している点に気づく学生や、「想像力が豊かだなと思いました。バランス等も考えて描くのが大変でした」というように、子どもの想像力に対する感動や、描き写す際に必要なバランス感覚について気づく様子も見受けられた。また、メッセージカードにおいて、ほとんどの学生たちは、色や形、構図など、描いた作品を鑑賞しての感想を記述しており、子どもへの温かい眼差しが感じられる。

一方で、自分の感想を主に述べ、描いた絵についての分析記述に乏しい学生の模写は、原画に対して注意深く描こうとする姿勢に、やや欠けるという課題が見うけられた。例えば、色彩の面積比や、空間把握、色彩、動物ではひげの数、線の形、矮小表現などである。また、「自分には自由に画用紙いっぱい描くことができないから模写するときに楽しく描けて良かった」という記述に代表されるように、子どもの描く絵の「大きさ」についての意見が複数見られ、美術表現から長年遠ざかっていた青年期の美術教育の課題も感じられた。大学生は、発達段階において、美術の学習の上では第二の停滞期といわれる青年期に相当し、ともすると美術の表現活動から遠ざかりがちな時期である。青年期の発達特性として挙げられている心の葛藤の問題を模写制作において昇華でき、承認欲求に繋げられるよう、積極的に人とコミュニケーションができるような場を設定するなど、楽しく授

業が進められる配慮が必要であると思われた。加えて、模写することだけが、子どもの絵の良さを知る手掛かりになるわけではないことや、模写することだけが、美術教育の真髄であるような誤解を招かぬよう、十分に説明し、理解を得ることも重要である。

本実践から得られた子どもの絵の模写からの学びの可能性として、主に以下の三点があげられるのではないかと思われた。

- ・これまでの絵画学習の振り返りによる描くことへの自信の回復
- ・描く楽しさについて改めて知る
- ・絵の魅力について、自分の目で見て分析的に理解できる

一般的に、服や手が絵の具等で汚れるような面倒な作業は、よほど興味が持てる内容や必要に迫られること、目的的な活動や、教員との関係性がある場合等ではない限り、現代の若者は積極的に取り組もうとはしないと考えられるが、異校種連携のアートプロジェクトや、拓かれた表現の場であれば、新鮮さや、やりがいを感じて活動できる可能性がある。

今回の実践のように、学び手と指導者のそれぞれが伸び伸びと学びあう形は、有意義で理想的な学習形態の一つといえよう。ただ、授業は、楽しいだけでは良くない。また、結果として学習目標に合致すれば良いというものでもなく、学生自身がその授業に充実感を感じ納得するなどの満足感を持つことができるような授業が望ましい。なお、本実践では、基本的にグループ毎に制作し、早くできたグループでは、個人で模写を行ったり、模写した作品に関連した絵を周囲に描いたりした。グループで制作を行うことは単独で制作を行うよりも難しい点もあり、メンバーのそれぞれが役割を分担しつつ合意をしていかねばならない。だからこそ、お互いの描いた軌跡を評価しあい、結果として真剣に制作出来たものと思われる。同時に、絵画への新しい鑑賞の視点が得られたのではないかと推測する。

なお、コンセンサスシートにおいて「もっと大きな作品でも良かったのではないか」という意見が見受けられる。このことは、描かれた作品が小さいという不満の声

とも考えられるが、同時に、大きな作品が学生たちによって描かれることへの期待とも受け止められる。本実践では、(株)銭高組の好意によって描画用に特別に平滑な仮囲いが準備され、また、岡山県立豊学校が提供下さった原画67枚(うち60枚を本実践で模写)と、4年生が卒業制作として描画する予定の描画面積との都合により、原画をコピーした大きさの4倍で描かれることとなった。

千田忠は、「大学・研究者の果たす役割、地域との関係形成の論理を明らかにすることは、きわめて重要な課題」であるとしている⁶⁾。本実践においても目的や価値観、責任性といった意識の共有化が図られる必要があると考え、本実践では、「子どもの絵の模写をする目的」として「子どもの絵の良さを知る」との掲示を行いつつ進められた。

Ⅲ. お わ り に

本研究で行った実践では、版画も含め、紙に描かれた作品を白く塗装された鉄板に直接描いた。ゴッホが浮世絵を模写したような独特のきらめきほどではなかったかもしれないが、明るくのびのびした子どもの絵の魅力を少しでも学生が感じてくれたなら、価値ある実践であったと捉えるものである。そもそも、我が国の伝統的な美術表現は、国際社会では、「表現の技」自体に重きをおく「工芸品」として評価されているという。子どもの絵の画面構成力の魅力については、古式にのっとり工芸的な手法で学ぶことも一つの有効な手段の一つかもしれない。

なお、各行事の様子をつぶさに、かつおおらかに描画するよう支援・指導しておられる岡山県立豊学校の幼稚部及び小学部の諸先生方の日々の努力と工夫について、今後とも学びを得たいと考えた。

謝 辞

最後に、色彩が非常に美しく、魅力的で生鮮な原画作品のデータをご提供くださった岡山県立豊学校の岡本宗久先生をはじめとした諸先生方と、学生のために、フラットで重い仮囲いを磨きをかけて提供くださった(株)銭高組の関係者の方、お忙しい中コンセンサスシートに意見を

提供下さった中国学園の教職員の方、ご家族の方、地域の方、学生に心から感謝しています。ありがとうございました。

註

1. 岡田清『幼児の絵の見方』創元社、1967、pp.30-31。
2. 前掲。
3. 常岡香里、橘高義典、田村雅紀「環境構成要素としての仮囲いの色彩特性に関する研究—景観特性区分地域における実態調査及び分析—」日本建築学会大会学術講演梗概集(東北)、2000、pp337-338。
4. 前掲。
5. 永守基樹、清原知二『幼児造形教育の基礎知識』、塩見智子「ピアジェの考えた発達と表現」、1999、p.29。
6. 千田忠『地域創造と生涯学習計画化』北樹出版、2001、pp.188-189。